

2019年10月

民俗 No. 19

けんぱくものしりシート

電気洗濯機



明治～昭和初めまで、洗濯物は川や井戸のそばでたらいと洗濯板



を使い、手で洗っていました。大変な力仕事で時間がかかり冬には手がかじかむ等、長い間洗濯は家事の中で最もつらい仕事でした。その後電気洗濯機が登場し、洗濯はだれでもできる簡単な仕事に変わりました。



洗濯物

20～30分で

ワイシャツ

約12枚を洗えたよ！



Q. 国産初の

電気洗濯機は？

A. 1930（昭和5）年に芝浦製作所（現：東芝社）が発売しました。この資料は約20年後の製造ですが、当時の型と大きく変わりません。

「三種の神器」

とよばれたよ！

昭和30～40年代頃（1955～75年頃）、日本は経済が

急成長してくらしが豊かになりはじめました。『三種の神器』（天皇家に伝わる宝物～鏡・剣・勾玉～）にちなんで、電気洗濯機・電気冷蔵庫・白黒テレビが、新しい生活と豊かさを表す品として人々のあこがれの的となりました。

ローラー

洗濯物をはさみ、脱水（しぼる事）をします。よくしぼれずもう1度手でしぼったり、服のボタンがはさまりこわれたりする事も！

洗濯槽（※）

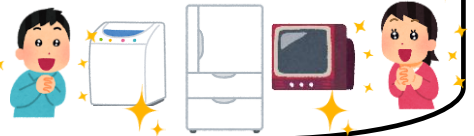
水・洗ざい・洗濯物を入れ、電気ので回転させて洗います。※槽…水等を入れる容器。



価格 53,000円

（現在の約334,000円相当）

1953（昭和28）年製造
東芝電気洗濯機 FW型



電気洗濯機の歴史

1930（昭和5）年に初の国産電気洗濯機が登場した当時は、とても高価だったため、ふつうの家庭では買えませんでした。1950年代（昭和25～35年頃）に入ると改良が進み、価格もだんだんと安くなりどの家庭でも使われるようになりました。

	いっそうしき 一槽式	にそうしき 二槽式	ぜんじどう 全自動
しゅるい 種類			
おも 主に つか 使われた ねん 年代	しょうわ 昭和20～30年代頃 ねん (1945～55年頃)	しょうわ 昭和40年代頃 ねん (1965～75年頃)	しょうわ 昭和60年代頃～ ねん (1985年頃～)
とく 特ちょう	1つの洗濯槽で「洗い・すすぎ」を自動ですす。「脱水」は手しぼりか洗濯機わきのローラーでします。	「洗い・すすぎ」と「脱水」をする2つの槽にわかれ、洗濯物を移しかえて使います。脱水も機械でできる様に！	「洗い・すすぎ・脱水」までを1槽で全て自動で洗えるようになり、最近では「かんそう」機能つきの物も！

洗濯にかかる時間

電気洗濯機…63分 たらい（手洗い）…58分

洗濯時間はたらいの方がわずかに早いです。それでも洗濯機が売れたのは洗濯が楽になった事と、その間に他の家事・習い事や外に働きに出る等の時間のゆとりができたからです。家族とふれあう時間もたくさん生まれましたよね。

参考 『ポプラディア情報館 昔の道具』ポプラ社 2014年/
『ポプラディア情報館 昔の暮らし』ポプラ社 2014年他

来月（11月）の
けんぱくものしりシートは
げんせい せいぶつ
現勢・生物—19だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。